

令和２年度埼玉県共助社会づくり支援事業 事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人くまがや小麦の会																	
事業名	埼玉県産小麦を使用した県立高校オリジナル製品開発による地元活性化事業																	
①事業の目的	高校生と地元の共働事業を通じて、人と人との繋がりを図る																	
②地域の状況（申請時）と課題	コロナの影響で１１月３日に八木橋百貨店で予定されていた「熊谷県立高校スイーツ文化祭」が中止となり、１月１６日八木橋百貨店で、スイーツ文化祭のアンケート調査を実施、スイーツ文化祭の現状報告を掲載した、小麦の会情報誌「タウンタウン小麦３０号」を配布した。																	
③事業の対象（者・もの）	小麦の会	熊谷市内県立高校・一般市民・八木橋	地元製造業者	北部地域振興センター・熊谷市役所農業振興課														
④事業内容 ※③の対象ごとに具体的に実施した内容を記入してください。	事業対象者への連絡と打ち合わせを計画し、本事業の推進を図る。学校訪問を9/18特別支援校、熊谷女子、熊商、熊工9/24に西高、熊香高、9/25熊農、妻沼を訪問して本事業の方向性を検討した。 ①「タウンタウン小麦」29号を8月に、30号を12月に発行。 ②事業対象者との打ち合わせを11/6に実施した。 ③1/16に八木橋百貨店でスイーツ文化祭の現状報告会と、アンケートを実施した。	小麦の会が各校を訪問し、熊谷県立高校スイーツ文化祭の今後を検討した。試作品のアイデアを頂き、小麦の会が仲介をして、地元製造業者との協働となった。	各校のオリジナル製品の開発を小麦の会と検討して、8/9に試作会を実施した。	11/6の事業対象者との打ち合わせ会で、六次産業化事業で県立高校が使用するオリジナルシールを協力頂く件が検討された														
⑤事業実施による成果 ※④の事業により達成した成果を具体的に記入してください。	八木橋百貨店でのスイーツ文化開催は、コロナの影響で今回は中止だったが、県立高校のオリジナル製品を引き続き開発する方向性が出来た。 タウンタウン小麦への市民からの協力があり、新聞折込部数を5000部増刷でき17000部になった。12月発行のタウンタウン小麦」30号から実施	「タウンタウン小麦30号」を八木橋百貨店来場者に配布しながらアンケート調査に御協力頂いた。一般市民の方々は母校のオリジナル製品を現役の高校生が販売する会を楽しみにしている。	埼玉県産小麦を使用した、パンケーキのようなものが試作された。7年前はオリジナル製品の製造依頼を待たず無期には受け止めていない気配もあったが、高校の催事、瓶葛西、御土産等に使用していただき、売上に貢献してきている。 高校生のオリジナル製品とは別に、埼玉県血液センターが「献血君」としてオリジナル製品を小麦の会に依頼してきた。血液センター・地元製造業者・小麦の会で開発し、地元製造業者に製造依頼をしている。	各校のオリジナルシールが底をついていたので、六次産業化計画により、生産者も小麦の会、会員に登録いただいており、熊谷産小麦を使った高校生オリジナル製品の開発、販売は検討の対象である。														
⑥成果の測定方法 ※⑤の成果を測定する方法を記入して下さい。	アンケートは実施したが、本年度11/3の八木橋百貨店でのスイーツ文化祭がコロナの動向に左右される。官民が共働する事が今後の熊谷市の在り方にも、参考事例として加えられたいと思う。NPOはビジョンは官と民の懸け橋的存在が重要視されてくる。	アンケート配布部数200枚、回収20枚回収率10%であった。そのうち20%の一般市民がカコスウィーツ文化祭に来ていた。各校のオリジナル製品が出来た	地元の活性化が、地元企業に及ぼす影響力の測定は地元製造業者の売上の増減でが指標になる。	官民との仲介役として、行政が効率よく動けるようにNPO法人はかつどうする。国庫金の効率的運用が成果の測定になるかと思う。														
⑦測定結果 ※⑥の内容を詳細に記入してください。	行政の実施している業務を民間に移行してゆく緩衝材としてNPO法人が有効な活動が出来る。官民共働の効果を図るのは国庫金の効果的活用指数を求めて行けば把握できるのかと思う。	人口減少に伴い経済の低迷する中、暮らし易くするために、公共事業をNPO法人を仲立ちとして、官民共働事業に振り替えてゆき、効率を求めてゆく。	国庫金の有効活用が地元業者に還元される仕組み	共働作業を通して官民協働を身近なものにして行く														
⑧事業実施による課題解決の効果 ※どのような地域貢献ができたか、地域課題解決への効果等を具体的に記入してください。	共働事業を通して、地元製造業者には、隙間が埋められ、製造設備の効果的運用が図れる可能性を求めて、ソーシャルビジネスとして、NPO法人は共働体制を作って行く潤滑剤となる。	一般市民、高校生が実社会に触れ、将来を構想するアイデアを蓄積して行く機会となる。	地元企業は地元活性化が事業の発展に繋がる。地域社会は、たとえば中小企業のような環境にあると思う。官民共働がより多く、垣根のない社会が創られる。	北部地域振興センター、熊谷市役所は地域に密着した、行政機関として、中央とのパイプ役になっている。														
⑨事業実績	<table><tr><th>時 期</th><th>内 容</th></tr><tr><td>7/20,7/29,8/6</td><td>NPO基金の助成を受けた事を印字して「タウンタウン小麦29号」の発行を目指して打ち合わせを重ね、8/26に発行となった</td></tr><tr><td>9月中旬</td><td>9/18、9/24、9/25の3ケ間で県立高校8校を小麦の会が訪問して、打ち合わせを行った。</td></tr><tr><td>11月6日</td><td>11/3八木橋百貨店で開催予定の「熊谷県立高校スイーツ文化祭」が中止になった事を踏まえて、今後の方針を話し合うことが出来た。</td></tr><tr><td>12月</td><td>「タウンタウン小麦」29号30号の発行が出来た。30号は市民の協力を頂き、5000部の新聞折込増刷ができ、15,000部の折込となり、会員への郵送、熊谷市要所への配架は合計で17,000部の発行となった。</td></tr><tr><td>1月16日</td><td>八木橋百貨店で「タウンタウン小麦」30号の配布を四ながら、アンケートを来客におねがいし、実行した。</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>				時 期	内 容	7/20,7/29,8/6	NPO基金の助成を受けた事を印字して「タウンタウン小麦29号」の発行を目指して打ち合わせを重ね、8/26に発行となった	9月中旬	9/18、9/24、9/25の3ケ間で県立高校8校を小麦の会が訪問して、打ち合わせを行った。	11月6日	11/3八木橋百貨店で開催予定の「熊谷県立高校スイーツ文化祭」が中止になった事を踏まえて、今後の方針を話し合うことが出来た。	12月	「タウンタウン小麦」29号30号の発行が出来た。30号は市民の協力を頂き、5000部の新聞折込増刷ができ、15,000部の折込となり、会員への郵送、熊谷市要所への配架は合計で17,000部の発行となった。	1月16日	八木橋百貨店で「タウンタウン小麦」30号の配布を四ながら、アンケートを来客におねがいし、実行した。		
時 期	内 容																	
7/20,7/29,8/6	NPO基金の助成を受けた事を印字して「タウンタウン小麦29号」の発行を目指して打ち合わせを重ね、8/26に発行となった																	
9月中旬	9/18、9/24、9/25の3ケ間で県立高校8校を小麦の会が訪問して、打ち合わせを行った。																	
11月6日	11/3八木橋百貨店で開催予定の「熊谷県立高校スイーツ文化祭」が中止になった事を踏まえて、今後の方針を話し合うことが出来た。																	
12月	「タウンタウン小麦」29号30号の発行が出来た。30号は市民の協力を頂き、5000部の新聞折込増刷ができ、15,000部の折込となり、会員への郵送、熊谷市要所への配架は合計で17,000部の発行となった。																	
1月16日	八木橋百貨店で「タウンタウン小麦」30号の配布を四ながら、アンケートを来客におねがいし、実行した。																	
⑩連携先の名称と役割 ※団体名、代表者名、担当課、担当者名、連絡先などを記入してください。 ※連携先の数に合わせて、行を追加、削除してください。	連携先の名称	代表者名（役職等）	連絡先（担当課・担当者・電話等）	役割														
	小麦の会	会長 日向美津江	090-3225-7687	統括														
	熊谷市役所産業振興課	課長 島村課長	048-588-1321	事業野安定的な運営に協力頂く														
	北部地域振興センター	所長	048-524-1111	事業野安定的な運営に協力頂く														
	八木橋百貨店	部長 福島部長	048-523-1111	八木橋の使用に内部との折衝														
	熊谷高校	教頭 関根教頭	048-521-0050	学生との窓口 当日の引率														
	県立熊谷特別支援学校	主幹教諭 梅本史子主幹	048-532-3689	学生との窓口 当日の引率														
	熊谷西高校	主管 奥先生	048-532-8881	学生との窓口 当日の引率														
	妻沼高校	事務長 野原博事務長	048-567-1005	学生との窓口 当日の引率														
	熊谷農業 高校	主幹教諭 杉資産主幹	048-521-0051	学生との窓口 当日の引率														
	熊谷女子 高校	教頭 松本康二教頭	048-521-0015	学生との窓口 当日の引率														
	熊谷工業 高校	校長 野口真司校長	048-523-3354	学生との窓口 当日の引率														
	熊谷商業 高校	教頭 竹越利之教頭	048-523-4545	学生との窓口 当日の引率														
⑪連携先との調整状況 役割分担・連携体制 ※連携先団体との程度まで連携体制が構築できているか、図などで示してください。 別紙による提出も可（A4判1枚以内）	中止となったが、「熊谷県立高校8校スイーツ文化祭」も7回目を迎えている。県立高校8校を個別訪問させて頂き、スイーツ文化祭に対する各校の考え方を理解することが出来た。各校の校長先生が大きく影響する高校と、生徒の自主性を尊重する高校とがある。小麦の会は埼玉県産小麦の地産地消を通じて、地域社会との交流を目標としているので、各校の考え方を理解しながら、高校に地域社会との交流の意義を大切にして頂く努力をした。県立高校を対象にしているので、小麦の会は県との結びつきを考え、県の協力体制を構築する事が県立高校の理解、協力を頂ける要因になるのではないかと考える。一市民団体の活動を受け入れる煩わしさを感じることで、活動に意義を見出せない高校もあることが判った。8校の結束を続けていくことは7年目を迎えて、発足時より課題は多くなってきた。 本事業対象高校8校中6校が連携できている。2校については、これまでは自校の文化祭の製品製造に小麦の会の研究室を使用していた。交流はスイーツ文化祭の開催以前からあり、本事業の中心的引率力を示して頂いていた。工業高校の体質から男子スイーツで10人もの生徒が、小麦の会の研究室の大きなオーブン等を使用して製造する姿は、地域との交流そのもので、良い関係が築かれていると、考えていた。今回の訪問で全く違う対応となり、築いてきた友好関係が一言で変わってしまう危うさを実感した。学校方針の変更は理解できるが、地域社会との交流は長年かけて築き上げてゆくものと思う。今後も機会を得て、交流を考えてゆきたい。連携が崩れてきている二つ目の高校の社会体験で熊谷駅構内での販売実習実地体験に小麦の会の製品を使用して頂き年に2回実施してきた。これもスイーツ文化祭が始まる前からの交流であった。この行事が働き方改革、自校の教育方針変化で中止になった。熊谷産小麦で作ったオリジナル地粉パン”灼熱のカレーパン”は学生の発想でシールも熊が炎の中にいる。県の催しに出演して販売していた。会自体が無くなっている。時代の変化との対応も必要で有ろうが、3年間過ぎず地域との交流は残したいものだ。																	
⑫費用面での工夫	八木橋百貨店での開催が中止となり、予算額の87%の事業費となった。助成金を使わせて頂く項目については人件費は極力制限し、外部講師をお願いする費用、当会の会員が参加する費用も下記実把握できるものとした。又、飲食関係は一切計上しない。コロナ禍で熊谷市、観光協会当様々な行事が中止となる中、「タウンタウン小麦」の発行が続けられた事は大変感謝している。																	
⑬事業の達成状況 ※③～⑫を踏まえ、事業全体としての程度まで目的を達成することができたか自己評価してください。	①小麦の会情報誌「タウンタウン小麦」29号30号にスイーツ文化祭の特集を組むことができた。一般の方からの「タウンタウン小麦」への協力のお申し入れがあり、30号の新聞折込部数が5000部増やすことができた。 ②八木橋百貨店で11月3日に開催予定であった「熊谷県立高校スイーツ文化祭」が中止となり11月6日事業対象者の打ち合わせを実施して、八木橋百貨店でスイーツ文化祭が例年開催されていた場所で1月16日にアンケートを実施する事とした。時節柄その場での記入はム塚しいので、アンケート回収箱を同じ場所に25日まで設置して頂き回収した。200ふ配布20部の回収となった。 ③コロナの影響で一堂に会する事ができなかったで、高校8校を戸別訪問させて頂いた。この事で高校の本事業に対するお考えをお聴きする事が出来たと思う。7年目を迎え時代の変化が高校の変化にも繋がりで、本事業の受け入れ方にも変化が出るのはごく自然な事と理解することができた。達成度は80%とさせて頂いた。、																	
⑭今年度の反省点	コロナ禍で密を避ける為、小麦の会から各校を訪問させて頂き、各校の取り組み姿勢をお聴きする事が出来たが、連携が取り難くなっている高校もある。県立高校が地域と交流を深める必要性を年間を通して、小麦の会から各校に働きかける必要があると思った。地域出身等御縁のある芸術文化関係の方のコンサート、発表、講演等を校の体育館等で開催して自校のオリジナル製品を配布して認知度を高める。小麦の会の地域ボランティア活動として取り組み事により、地域への関心発信を高める。地域交流の進めが不足していたように反省する。																	
⑮来年度以降、この取組をどのように継続、発展させていくか	本事業が高校の期待している事が事業に取り入れられているかを考える時期が7年目を迎えて訪れている。県立高校と、地域との交流は社会情勢の変化により変化している。東京と新幹線を使えば40分在来線でも60分弱の時間で行ける。受験生の選択も大きく変わってきている。熊谷は街づくりも地方都市として確立するには東京が近すぎる。コロナ後を考えると東京集中の鈍化が起こるのではないか。東京都内の賃貸物件の空室が目立ってきている。大宮は付近は盛況であり、次には熊谷に移って来る。県立高校へ通う学生も外部からの転入してくる人口に比例して、広範囲からの学生になって行く。3年間を在学する地域との交流は今後より大切な事と思う。熊谷県立高校8校との交流を学校に迷惑を掛けない状況で存続してゆきたいと考える。																	